

学校だより
はす

ぬま

ちゅう

かがみ

蓮沼中鏡

平成26年度 第12号

平成26年12月18日発行

大田区立蓮沼中学校

校長 大原章博

落ち葉掃きボランティア



本校の生徒会活動では、さまざまなボランティア活動を推進しています。年度当初の「ガーデンパーティ」への参加、10月に「壁塗りボランティア」を行いました。毎回、多くの生徒が自ら参加を名乗り出て来ています。

そして、12月は「落ち葉掃きボランティア」を1年生12名、2年生10名、3年生30名（I組生徒を含む）と生徒会役員6名の計58名が参加して、落ち葉掃きを行いました。学校内外を5つのエリアに分けて、12月2日（火）から12月12日（金）まで9日のうちの4日間を行いました。朝7時50分に集合して各生徒が、ほうき、軍手、ゴミ袋などを持って開始します。8時05分までの短い時間ですが、毎回多くの落ち葉を回収することができました。落ち葉がきれいに掃かれてなくなって地面がすっきりすると同時に、掃き終えた後の充実感は、何ともいえない良い気分を味わうことができました。寒くなってきたこの季節では、朝の早起きはつらいことかもしれませんが、このようなボランティア活動は、学校全体に必ず良い影響を与えてくれるものと思っています。しかも、積極的に参加してくれる生徒がいるということが、大変うれしく思います。

この世の中には、募金活動や清掃活動などさまざまな形のボランティア活動が存在します。私たちは、自ら積極的にその活動に携わるボランティアと、逆に受け手として周りからさまざまな形でボランティアの恩恵を被ることがあります。学校生活一つをとってみても、毎日校門に立って挨拶運動を展開してくださっている保護者の方々や、地域の皆様方による道徳授業地区公開講座の時のゲストティーチャーなど多くの場面でお手伝いをいただくことがあります。

ボランティアとは、もともと無償の奉仕活動で、言葉の意味から考えれば、人を助けるということになります。しかし、ボランティアとは、「してやる」ではなく、「させてもらう」という気持ちが大切なのだと思います。「何かをしてやっている」という気持ちは必ず態度にも表れて、ボランティアを受ける側からも気持ちの良いものではなくなってしまいます。ボランティア活動に参加するということは、その代償を求めるのではなく、体験を通じて充実感を感じ、他を思いやる心が育つということが重要なのです。私たちの生活する社会が、けっして押しつけではなく、ごく自然にボランティア活動が日常的に行われる社会となったとき、どれほど住み心地のよいものになるかわかりません。そのためにも日頃の学校生活の中で人のために、全体のために働くという奉仕の精神を持ってほしいと願っています。

命の大切さを学ぶ教室

12月10日(水)に「命の大切さを学ぶ教室」を池上警察署の協力のもと、実施しました。犯罪等で家族を亡くされた被害者の遺族の方をお招きして、お話をいただきました。これは、生徒に被害にあった家族の想いや、生命の大切さを考えてもらい、罪を犯してはならないという規範意識の向上を図ることを目的とし、さらに、自分自身の命や他人の命を大切にしようとする気持ちを育むためのものです。

講師の佐藤さんの話を生徒は、真剣に聞いていました。突然、両親を失った時の様子や思い、そこからどのように立ち直り生きてきたかをお話しされました。周りの愛に満ちた支えで心が癒されたこと、普通の人生を全うすることこそ、金メダリストだということも生徒の心に響いたことと思います。生徒会長が、最後に話を聞いて自分の感じたことを佐藤さんに述べると、佐藤さんは感激して何度もお礼を連沼中の生徒に言っていました。

小学生学校見学・学校紹介 小中一貫教育

小中一貫教育のひとつとして、12月11日(木)におなづか小学校6年生を対象とした授業見学会を行いました。徳持小学校は、インフルエンザ流行のため、後日になりました。

今年度は、昨年度までとは異なり、授業見学は1つのクラスを20分間参観する形になりました。この形のほうが、教科はそれぞれ異なりますが、中学校の授業の様子が児童にとってわかると考えたからです。

授業を行うときの授業規律は、小中共通のものが多くあります。それを体感してもらうことも重要だと考えています。小学生は、入学前に中学校の雰囲気味わうことができよかったですと思います。

参観後は、音楽室に集まり、本校生徒会役員による学校紹介をしました。小学校と中学校の違いなどを説明し、小学生は熱心に耳を傾けていました。説明を行った生徒会役員も立派に務めを果たしていました。

生徒の活躍

税の作文…蒲田税務署長賞 小堀隼也(3A)

留学生が先生 ～ 国際理解教育 ～

11月28日(金)に今年度も海外からの留学生をお招きして、「留学生が先生」を行いました。今年度は、1学年とI組だけでの開催となりました。

生徒は、どんな先生が来るのか、日本語が通じるのか、英語で質問しなくてはならないのか、など不安な気持ちと、外国の方と実際に触れ合うことのできる期待とで複雑な気持ちでいっぱいでした。

しかし、授業が始まると留学生の皆さんが、自分の国の文化や様式についてわかりやすく日本語で説明してくれましたので、生徒はすぐに慣れて楽しそうに授業に参加することができました。留学生の皆さんも、生徒が興味深く話を聞いてくれて楽しかったと言ってお帰りになりました。

これを機会に、いろいろな国のことに興味を持ち、国際理解を深めてくれることを願っています。



イチハシ先生(韓国)



ハミド先生(アルジェリア)



ファビオ先生(イタリア)



アナスタシア先生(ロシア)